

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	キッズサポートていだ南栄教室		公表日	2026年2月27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100		・活動内容によってテーブルの配置を移動させ配置を変えるなど空間づくりを行っている。 ・法令を遵守しています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100		・基準に応じ、適切に配置しています。 ・法令を遵守しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100		・イラストで名示を行い、子どもたちの動線を考えながら配置している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100		・毎日掃除、消毒を徹底している。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100		・奥の個室をクールダウンできる場所として子ども達にも伝え使用できる状態にしている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100		・担当者会議をとおして職員の意見をすり合わせながら、モニタリング表や目標の設定を行っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		・業務改善が必要な事項は速やかに対応を行っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		・毎日の申し送り（ミーティング）時や、帰りの送迎後の日報、ケア記録記入時に情報共有している。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100		・月2回事業所内研修を行っています。 ・全員参加しない研修もあるため、その後情報共有は確実に going。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100		・職員全員の目線で児童に応じた意見を出し合っている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100		・個別支援計画の見直しの時期に合わせて、支援に関わる職員全体で担当者会議を開催。子どもの状況、ニーズの把握、今後の課題等を話し合い、計画書作成に反映している。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100		・支援についての取り組みは共通認識できるようにミーティングなどで周知、支援について話し合い一貫性を持つようにしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100		・運営アプリの活用と、個別ファイルにも記録を作成している。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100		・日常生活訓練、SST、作業学習、運動療育、学習療育、自然体験、野外活動など様々な療育の中で、個別支援計画に沿いながら課題設定を行っている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100		・担当（リーダー）を決め、職員全体で再考しながら進めている。 ・ミーティング時の活動の説明の際に意見交換したり、事前に活動の相談などをしやすい環境作りを行っている。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100		・前回の内容を把握した上で新しいプログラムを取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100		・自由あそびの時間などに個別に支援する時間を設けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100		・送迎前に申し送りを行い連携を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100		・日報、活動記録、ケア記録などを書きながらその都度気付いた点、気になる点を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100		・支援活動、その日の様子などを記録し、連絡帳で保護者へ報告。ケア記録を見直しながら子どもの姿の変化などを確認している。	・今後も徹底していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100		・放課後等デイサービス計画書の計画期間に基づき、担当者会議を行い、定期的なモニタリングを実施、意見をすり合わせ見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100		・月案に基づき様々な創作活動を取り入れている。 ・長期休み、祝日など課外活動の機会を設け外部施設利用を行っている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100		・創作活動、集団遊びへの参加を自己決定できる環境づくりを行っている。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100		・利用者の情報共有会など、相互理解する場を設けることに積極的な園とは情報共有する場を保護者の同意を得て設けている。	・就学前に利用していた施設と電話などの手段も用いながら、情報共有する機会を設けることを徹底していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100		・該当者なし	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	50	50		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100		・送迎時の会話やHUGでのメッセージに真摯に対応し、保護者に寄り添いながら問題解決を心掛けている。	・HUGのやり取りだけでなく、送迎時などご家族のご様子を伺いながら、小さなサインも見逃さないように対応することを心掛ける。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100		・ていーだカフェ等の講演や懇談会等で実施している。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100		・見学時には大まかに。契約時には細かく丁寧に説明している。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100		・ていーだカフェで保護者同士懇談会を設けている。		

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100		・HUGメッセージのやり取りや、面談での声掛けを行っている。	・HUGのやり取りだけではなく、送迎時などご家族のご様子を伺いながら、小さなサインも見逃さないように対応することを心掛ける。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100		・保護者同士の交流などを目的に家族参加型の秋祭り、ていーだカフェの開催している。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100		・カスハラ研修に参加し、周知した。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100	・地区会には入会し、祭りの協賛をしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100		・連絡帳を通して、訓練の様子をお伝えしている。	・現在は事後報告の為、実施前にも報告の必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100			・するように努めているが、年間計画とずれて実施する場合がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100		・送迎時の対応、本児の毎日の視診等、職員間で連携している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100		・該当児なし	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100		・緊急連絡先等の把握。速やかな連絡が出来るように連携を図っている。	・適宜連絡先の更新など密に連携を図っていくことが必要である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100		・その都度迅速に記入、話し合いを行う。	・小さな出来事もおろそかにせず、ヒヤリハットとして受け取っていく必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100		・入職時と年1回研修を受けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100		・契約時の面談の際に説明し、同意書にサインを頂いている。		